

(熊本県立荒尾支援) 学校 令和 7 年度 (2025 年度) 学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「一人一人の自立と社会参加を目指し、地域社会に開かれた教育活動の展開」</p> <p>共生社会の実現を目指し、地域社会と連携しながら、児童生徒一人一人に地域の中で社会の中で社会を構成する一員として自立、参加するために必要な「生きる力」を育む教育実践に取り組む。</p>
---

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた自立と社会参加に向けての指導・支援</p> <p>① 学びの連続性・系統性を担保し、個別の教育的ニーズに応じた、確かな学びを保障するカリキュラム・マネジメントを継続する。</p> <p>② 子どもたちが夢を持ち、学習や生活への意欲につながるよう、一人一人の多様な教育的ニーズに応じ、子どもの「困難さ」に応じた「手立て」を講じながら指導できるよう専門性を高め、授業の充実を図る。</p> <p>③ 障がいによる困難さを補い、学習や生活を豊かにするための情報活用能力を育成するため、情報モラル等を含めたうえで、授業等において児童生徒による ICT の能動的活用を図る。</p> <p>(2) 安全・安心な教育環境づくり</p> <p>① 健康教育や人権教育、いじめ防止の取組などを通して、心身の健全な発達を促す。</p> <p>② 医療・福祉・行政等の関係機関や関係者と積極的に連携し、児童生徒が安心して学べる生活環境を整える。</p> <p>③ 地域と連携した防災体制を構築・維持するとともに、防災教育の充実を図る。</p> <p>(3) 共生社会の実現を目指した教育活動</p> <p>① 地域資源を活かした教育活動を展開し、児童生徒が地域の中でたくましく豊かに生きていく力を高める。</p> <p>② 教育活動を地域に広く公開すること等で学校の取組を発信し、共生社会の実現に向けた理解啓発を図る。</p> <p>③ 地域全体の特別支援教育及び福祉の充実に向けた支援を行い、地域貢献に資する。</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善	業務の効率化・平準化	分掌部業務及び組織の見直しを行い、業務の効率化・平準化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務遂行後、改善・反省点を踏まえた「直後プラン」を作成する。</li> <li>・管理職が分掌部長面談を行い、業務棚卸表を基に学期ごとに改善点の洗い出しと解決策を検討し、業務内容と分掌部編成を見直す。</li> </ul>	B	<p>【成果】</p> <p>分掌部内で削除や結合等の視点で業務の見直しができた。また、分掌部長面談や業務棚卸表を基に結合や再配置を検討し、新しく分掌部を編成したり、業務の平準化を図ったりすることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>各分掌部等で課題の洗い出しはできたが、検討や直後プランの作成まで至らないことが多かった。</p> <p>直後プラン作成方法を明示して徹底するとともに、分掌部新編成における確実な業務の引継ぎ、運用の検証を行う。また、年度当初に分掌部とグループ業務を考慮して教科や行事等の担当者を決定する。</p>

	働き方改革	心理的安全性の高い職場環境づくり	ストレスチェック制度におけるストレス因子職場の対人関係上のストレス等が県立学校平均値となるようにする。	・メンタルヘルス対策の研修や各種研修において職員同士が話し合える機会等を多く設定する。	B	【成果】 スマイルアップ研修では職員の満足度が9割以上と高く、悩みの解消や視点の多角化につなげることができた。 【課題】 次年度も研修は継続し、早めの時期に行う。また、働きがいを持てる、チャレンジできる職場をつくっていく。
	高等部一般学級の運営	岱志高等学校との連携、活動の充実	岱志高等学校と連携を密にし、不審者対応や防災等協力し合う。また、交流及び共同学習の充実を図る。	・両校の不審者対応や防災等について共通理解を図り、体制を整える。 ・両校の交流及び共同学習が可能な行事や授業を検討し、具体的な計画を立てる。	B	【成果】 連絡体制を整えて合同避難訓練を2年ぶりに実施し、課題を洗い出すことができた。岱志高校の清掃を行い、生徒の様子を知ってもらうことができた。 【課題】 互いの取組や状況を知るため、情報交換を行う必要がある。
	二校舎間の連携	各校舎間の取組への関心や理解の高まり児童生徒間の交流の充実	各校舎間の児童生徒職員が互いのことに関心をもち理解を深める。	・全体朝会や長期休業中に各グループの取組を紹介する。	C	【成果】 進路便りや教育課程検討委員会、性教育委員会等で互いの取組を知ることは定着した。 【課題】 日常的な情報交換の場や事例を用いた縦割りでの研修時間の確保等が必要である。また、文面＋声掛けによる確実な連絡を行う。
授業の充実	教育課程の評価及び改善	教育課程の編成	学部間のつながりを意識した教育課程を編成するために、カリキュラム・マネジメントを推進する。	・教育課程アンケートを実施し、個々の児童生徒の教育的ニーズや各学部の教育課程の改善点を把握する。 ・教育課程検討委員会では、分掌部員全員で全体の方向性や進め方を確認し、学部での課題等を共有する。また、会の内容を学部周知する。	A	【成果】 教育課程検討委員会や分掌部会の中で、全体の方向性や進め方を確認しながらカリキュラム・マネジメントを進めることができた。また、教科会を実施し、他学部の取組を共有し、学部間のつながりについて検討することができた。 【課題】 教科を絞って教科会を実施したため、次年度も継続する。また、部員の異動があってもカリキュラム・マネジメントを継続的に推進できるよう、各学習グループにおける教育課程編成の流れを可視化し、共有する仕組みを整える。

	授業改善	職員研修	<p>自立活動の個別の指導計画作成・評価に関する研修をとおして、自立活動に必要な基礎的な知識・理解を深め、実践力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育実践スキルアップ研修を基に、年間をとおして自立活動に関するグループ研修を行い、自立活動の指導力の向上を図る。</li> <li>・経験の浅い職員を対象にした、基礎的な研修や意見交換の機会を設定する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>グループ研修を通して、個別の指導計画の作成から授業準備、実践、振り返り等進めることができた。また、授業研究会をとおして、他者とのかわりに関する効果的な指導方法について意見交換することができた。</p> <p>ARA・SHI セミナーで、基礎的な内容に関する研修を実施し、自立活動の実践における細かい知識や技術について情報交換を行うことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>研修後のアンケートで、新たな研修テーマのニーズがあがってきたため、進路指導部と連携し研修を計画する。</p>
	授業改善	授業改善	<p>各学習グループにおける取組の共有を図り、授業実践例の整理・活用を進め、授業改善につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ研修等において、各学習グループの授業実践を確認・共有する。また、整理した実践事例を校内で共有し、実践力の向上を図る。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>自立活動の実践について、各学習グループ内で確認・共有を行い、研修部で整理を行った。学習グループ内において、共有した情報を参考に実践や教材、学習のグルーピングを見直すなど次の実践へいかすことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>支援体制上、他クラスや他グループの授業を実際に見に行く機会が設定できない。</p>
キャリア教育(進路指導)	キャリア発達を促す進路指導の充実	進路情報の提供	<p>生徒・保護者・職員向けの進路情報の提供を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有明圏域すべての事業所による保護者向け福祉サービスセミナーを、生徒、保護者、職員が参加できる場として改善実施する。</li> <li>・進路指導部員全員が年間計画に基づいて進路便りを執筆し、各年齢段階におけるキャリア教育の啓発を図る。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>夏季休業中に高一般校舎で行い、非常に多くの保護者や生徒が参加し、進路情報を提供することができた。</p> <p>ほぼ計画どおりに発行し、進路に向けての取組等を発信することでキャリア教育の啓発を図ることができた。保護者向け福祉サービスセミナーは保護者から好評であった。</p> <p>【課題】</p> <p>次年度は、保護者向け福祉サービスセミナーに職員も参加しやすいように会場を調整し、職員研修の一つとする。</p> <p>進路便りは、保護者や職員が見ていないような反応があるため、更に発信方法や内容の工夫が必要である。</p>

		保護者と連携した進路指導	荒尾市手をつなぐ育成会との連携を通し、異年齢保護者間の交流の機会を設ける。	・本校 PTA と荒尾市手をつなぐ育成会が連携した合同研修会(卒業生保護者と在校生保護者の座談会等)を企画運営する。	C 【成果】 一部の保護者ではあるが、手をつなぐ育成会との連携を通し、交流することができた。また、授業参観後の保護者へ進路学習を行い、卒業後の生活や制度について保護者と連携することができた。 【課題】 PTA と手をつなぐ育成会が連携した合同研修会の開催ができなかった。双方の担当で年度初めに活動の打ち合わせが必要である。
生徒指導	生徒指導体制	児童生徒の規範意識の高揚	規範について学びを深めるとともに、心得の見直しに生徒が参加することで、社会を構成する一員としての自覚やスキルを高める。	・定期的に校則に触れる機会を設定し、学校生活や家庭生活(SNSの利用、生活リズム等)における事例をとおして日常的に生徒心得や学校生活のルール等の遵守について指導を行う。 ・心得の見直しについては、高一般生徒全員が参加して考える機会を設定する。また、中学部においても生徒の意見を取り入れながら心得を作成する	B 【成果】 校則や SNS・ゲームの利用等について、事例を通して様々な起こり得るトラブルに触れるようにすることで、自分ごととして捉え、自分の生活を振り返るきっかけを作ることができた。 高一般生徒心得の見直しでは、各クラスで話し合う場面を設定したことで、自分ごととしてしっかりと考える姿が見られた。また、小中学部においても児童生徒会や各クラス等で「児童生徒くらしのめあて」について話し合い、それぞれが納得のいく心得を作ることができた。 【課題】 家庭生活の過ごし方や SNS の利用の仕方などは、小学部段階でのトラブルも増えてきているため、今後も計画的に取り組んでいく必要がある。心得の見直しについては、次年度以降も継続していく。
		子ども主体の児童生徒会の運営	児童生徒会活動や全校集会をとおして、児童生徒の主体性や意欲を高める。小・中・高重複と高一般との交流を図り、互いを知り合う機会を設定する。	・児童生徒会役員会を定期的に行い、挨拶運動や役員改選等、児童生徒の考えが反映されるように支援する。高一般の委員会活動を活用して小・中・高重複と高一般の交流計画を生徒主体	B 【成果】 児童生徒会役員会を毎月実施し、児童生徒から積極的に意見を募ることで、主体となって活動を進める姿が多く見られた。小・中・高重複と高一般との交流については、全ての学部、学習グループで一度は交流を実施することができ、高一般の生徒が中心となって内容を考案・運営するなど、リーダーシップを発揮する場面も見られた。

				で進めていく。	<p>【課題】</p> <p>今後は、交流の回数を増やしたり、内容を工夫したりするなどして、継続的な関わりを通して、相互理解を深めることができるように交流の充実を図っていく。</p>
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	人権が尊重される授業づくり	人権に関する授業づくりに努め、児童生徒が相互に理解し、認め合う関係を培うようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態に応じて、各学習グループで人権に関する学習等を年間2回以上実施する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>各学習グループにおいて、道徳の時間を中心に周囲の人への感謝、相互理解、規則の尊重、いじめなどのテーマで授業実践に取り組んだ。児童生徒の思いやりや協力、相互理解の精神へとつなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>6月と12月の人権週間の期間だけでなく、年間を通して学習内容を工夫しながら繰り返し学習していく。</p>
	職員の人権問題への理解と人権感覚の向上	職員の人権教育研修の充実	教育活動全般をととして人権尊重を意識した言動に努め、人権に関する基本的認識を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権に関する校長講話、人権教育レポート研修等を実施し、教育実践や児童生徒との関わり方を学び合う。</li> <li>夏季休業中には、熊本県人権同和教育デジタル研修を活用し、全職員が自主研修を実施する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>人権に関する職員研修を年3回実施した。校長講話では、職員の人権に関する基本的認識を高めることができた。人権教育レポート研修では、職員の児童生徒理解を深めたり、職員相互の実践の情報交換を図ったりすることができた。熊本県人権同和教育課のデジタル研修資料による研修では、職員のような人権課題に関する知識・認識を広げることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>様々な人権課題を取り入れた研修に取り組んでいく。また、職員同士が指導観や児童生徒観を語り合い人権感覚を高めることのできるよう、研修内容を工夫する。</p>
いじめの防止等	いじめの組織的対応	いじめを許さない学校づくりの推進	「いのち」や「きずな」について考え、行動する児童生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会で児童生徒会役員が生活目標を伝え、助け合いや感謝の気持ち、挑戦する気持ちなどの大切さ等について考える場面を設定する。</li> <li>各学習グループ</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>児童生徒会役員から全児童生徒に児童生徒会目標を周知し、校内に掲示したことで、意識を高めることに繋がった。また、児童生徒の実態に合わせて学習を展開したことで、発達段階に応じて、協力することや自他の大切さ、自分の言動を振り返ることができた。</p>

				<p>プで「いのち」や「きずな」等をテーマにした授業を実施する。</p>	<p>【課題】</p> <p>コミュニケーションに課題がある児童生徒も多いため、学習内容を工夫しながら、繰り返し学習していくことが必要である。</p>
		いじめの早期発見及び早期対応	いじめ根絶に向けた職員の意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒に対してアンケート調査を年4回実施し、結果を全職員で共有する。</li> <li>いじめ防止職員研修を年2回、いじめ防止対策委員会を年3回実施する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>いじめ防止職員研修を2回実施した。外部講師としてスクールロイヤーを招聘し、法的側面からの事実確認の重要性とその方法について講話をいただき、知的障がいのある児童生徒への聴き取り時の留意点について学ぶことができた。</p> <p>12月までの児童生徒に対するアンケートや、日常的な教師の気付きや保護者の相談から、13件の事案があがった。いじめ防止対策委員会では、外部専門家に助言をいただきながら対応等について検討することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>いじめと疑われる事案については、担任、学部主事で初期対応をしながら、教頭、生徒指導主事、情報集約担当とも早期に連携して情報共有できるようにする。</p>
地域支援	校内支援	校内支援の充実（職員の専門性向上）	職員のチームアプローチ及び外部機関との連携の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期の委員会や随時の拡大ケース会を通して、支援の役割を明確にしたり、外部機関との連絡調整を密に行ったりして、支援の体制を整える。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>SCやSSWを積極的に活用することができた。必要に応じて外部機関を交えたケース会を実施し、今後の方針や支援の役割について共通理解を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>定期の委員会は、現状を踏まえるに留まらず、SCを計画的に導入するなどして方針や手立てを講じていく。</p>
	特別支援教育のセンター的機能	段階的支援体制におけるセンター的機能の充実	段階的支援体制の機能の充実化、Coのサポートや特別支援教育に関する専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級担当者指導力向上研修やCo会議エリア会議、巡回相談等を通して互いの専門性を高める。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>小学校、中学校、高等学校に加え、幼稚園・保育園にも巡回相談を実施し、就学に向けた支援について助言をすることで、早期支援体制の構築につながった。</p> <p>【課題】</p> <p>巡回相談後の継続的な支援体制が十分ではなく、今後は</p>

					来校時や電話等で定期的な状況把握と支援の充実を図る必要がある。
地域連携 (コミュニケーションなど)	安全・安心な教育環境の整備	防災対策マニュアルに沿った確実な対応	全職員が状況に応じた適切な対応ができるように実践的な訓練を実施し、防災意識や災害対応力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対策マニュアルを活用し、実際の災害を想定した訓練等を実施する。</li> <li>・関係機関と連携した職員研修の実施及び福祉避難所の合同訓練を行う。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>シェイクアウトを含めた実際的な訓練を実施し、職員の日頃の危機管理意識等、今後につながる様々な課題を見つけることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>荒尾市総合防災訓練においては、更に荒尾市と協力体制を整え、持続可能な避難所運営方法を検討していく必要がある。</p>
	共生社会の実現を目指した教育活動の充実	総合型CSによる保護者と地域住民、関係機関等との連携・協力体制	学校運営協議会や荒尾市社会福祉協議会等と連携し、交流及び共同学習等をさらに充実、深化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員に日頃の授業や学校行事等への参加を促し、本校教育への評価や助言をいただく。</li> <li>・オープンスクールデイやHP、広報等で本校の取組や地域人材の活用について積極的に周知する。</li> <li>・交流及び共同学習の目的・目標を整理し、取組を充実させる。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>地域人材や資源の活用は、地域連携部がグループの要望を吸い上げ、社会福祉協議会にコーディネートしていただくことで、新規のゲストティーチャーや地域資源の活用が積極的になり教育活動が充実した。</p> <p>ボランティア共生大学においては、募集案内を行うことで、保護者や地域の方々がボランティアに参加する姿が見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>地域人材や資源の活用は、継続・進化・深化できる計画的、段階的な教育課程の編成を行う必要がある。交流及び共同学習の目的・目標の整理取組の充実は継続して行う。</p> <p>ボランティア共生大学については、参加の拡大・継続化できるよう、すぐへの活用や連絡手段を簡素化していく必要がある。</p>
情報教育	教育の情報化の推進	ICT機器の活用	ICT活用に関する研修を行い、教師のICT活用能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用能力を高めるための研修を行う。</li> <li>・児童生徒の情報活用能力を段階的・系統的に高めることができるよう、情報活用能力チェックリストを作成する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>情報管理研修や生成AIを校務や授業づくりに活用する研修を通して、更なるICTの活用を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>次年度は情報活用能力チェックリストを活用し、普段から教師が情報活用能力の向上を意識して授業づくりができるようにする。</p>

				また、具体的な指導内容を明記した指導計画を共有し活用していく。	
		情報の発信	ホームページや学校前の掲示板で学校の取組を発信する。	・ ホームページや学校前の掲示板にて定期的な情報発信を行い、地域への理解啓発を図る。	<b>【成果】</b> ホームページの内容を精査し、定期的に学部の様子を上げることができた。PTA向けにオンデマンド型の研修にも対応できるよう、Youtubeでの動画配信を行うことができた。 <b>【課題】</b> ホームページの管理や保守の体制を見直し、ホームページをより見やすくしていく。

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 保護者学校評価アンケート結果

20項目中5項目が昨年度より低い評価、15項目は高い評価だった。一番、評価が高かったのは、「教師は情熱を持ち真摯に教育活動に取り組んでいる」であった。自由記述においても職員の熱心な指導と親身な対応に感謝の声が多く見られた。評価が低く「わからなかった」の回答が多かった項目は昨年度同様、地域との連携や貢献、関係機関との繋がり、働き方改革などについてである。また、「教職員は、児童生徒の人権を尊重して指導・支援にあたっている。」等についても評価が低く、自由記述においても子どもの意見を尊重してほしいという意見も上がっていた。

##### (2) 職員学校評価アンケート結果

一番評価が高かったのは、昨年同様「保護者の相談に誠意をもって対応している」である。評価が低かった項目は、昨年同様働き方改革に関する項目であった。自由記述においても業務分担の在り方やタイムマネジメントについて改善を望む声が挙げられていた。また、人権感覚を問う意見も自由記述で挙がっていた。

##### (3) 学校運営協議員

口腔ケアの質向上と食育は密接に関連し、誤嚥予防や健康な体づくりに重要である。口腔ケアセンター等の活用や、食事の工夫、長期的視点を持って「食べる力」を育む継続的な支援が求められると思う。

インクルーシブ教育を推進するには交流相手校の保護者自身の歩み寄りと参加が重要だと思う。また、交流に関しては継続的に共に活動する場面を設けると自然な関わりが生まれやすいと思う。岱志高校の生徒にとっても様々な人とコミュニケーションを取る良いトレーニングとなっている。

ボランティア共生大学は高齢化が進み、若手育成が急務である。大学などへ働きかけ、世代交代を図る必要がある。またボランティア内容も準備だけでなく子どもたちと一緒に触れ合う等の工夫があるとよいと思う。

防災に関しては、医療的ケアの必要な子どもの避難時の物資準備は非常に大変である。いざという時に備え、実際に近い形で訓練を行うことが必要だと思う。岱志高校と荒尾支援学校の避難訓練については、火元を荒尾支援側に設定したことで新たな気づきがあり、今後も継続したい。

#### 5 総合評価

##### (1) 一人一人の教育的ニーズに応じた自立と社会参加に向けての指導・支援

教科会で他学部の取組を共有し、教科における学部間のつながりを検討することができた。グループ研修を実施し、他者との関わりに関する効果的な指導方法についての意見交換や自立活動の実践における細かい知識や技術についての情報交換を行い、専門性を高めることができた。情報管理研修や生成AIを校務や授業づくりに活用する研修をとおして、更なるICTの活用を図ることができた。校則やSNS・ゲーム利用の事例から、自分ごととして捉え、自分の生活を振り返るきっかけを作ることができた。情報活用能力チェックリストを活用し、小学部段階からの計画的な取組を行うことが課題である。

##### (2) 安全・安心な教育環境づくり

各学習グループで道徳の時間を中心とした人権教育に関する授業実践を行い、児童生徒の思いやりや協力、相互理解の精神を育成することができた。スクールロイヤーによるいじめ防止職員研修を実施し、法的側面からの事実確認の重要性とその方法について御講話いただき、知的障がいのある児童生徒への聴き取り時の留意点について学ぶことができた。年間をとおした

人権やいじめに関する学習内容の工夫、職員の人権感覚を高めることのできる研修内容の工夫、いじめと疑われる事案に関する更なる初期対応の強化が課題である。シェイクアウトを含めた実際的な訓練を実施し、職員の日頃の危機管理意識等、様々な課題を発見することができた。より実際に即した本校における福祉子ども避難所運営計画の作成、研修内容の工夫や保護者と居住地域との関係づくりが課題である。

(3) 共生社会の実現を目指した教育活動

荒尾市社会福祉協議会との連携により、新規のゲストティーチャーや地域資源の活用が活性化し教育活動を充実させることができた。広報あらかお、HP、作品展等で学校の取組を発信することができたが、より一層、本校への理解啓発のための発信の工夫が必要である。小・中・高校等への160件の巡回指導を行ったり、幼稚園・保育園への巡回相談を実施し就学に向けた早期支援体制を構築したりすることができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 教育活動の更なる充実

- ・ARA・SHIフェスティバルを軸とした同学年や異学年、他学習グループの児童生徒同士の学び合い、キャリア教育の充実
- ・職員の専門性の向上：職員のニーズに応じた研修の設定
- ・カリキュラムマネジメントの充実：学部間での系統性ある教育課程の編成、教科会等の実施
- ・交流及び共同学習の目的・目標の整理と取組の充実

(2) 働き方改革の推進

- ・業務の効率化：直後プランの作成や方向性検討の徹底
- ・業務への心理的負担感の軽減：スマイルアップ研修の継続、職員同士が話し合える等各研修の方法の工夫。
- ・二校舎間の連携：日常的な情報交換の場、確実な連絡体制、縦割りでの研修時間の確保

(3) 情報発信の工夫

- ・交流校保護者への本校児童生徒理解啓発の工夫
- ・HP構成の工夫

(4) 安心安全な教育環境づくり

- ・長寿命化改修工事に伴う環境整備及び安全確保、落ち着いて過ごせる環境づくり
- ・ボランティア共生大学や保護者と共に行う環境美化活動